

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和二年十一月十二月分）

選者 高山俳壇 高野悠子 先生

特選天 落葉松を抱き締めるかな 蔦紅葉 群馬県 竹淵千恵子

「落葉松を抱き締めるかな」の措辞に共感
蔦紅葉の美しさが際立つ一句

特選地 熱燗は話も熱く夜が更ける 群馬県 相川芳夫

酒を熱くして夜の更ける迄、どのやうな会話をされたのでしょうか。
「熱燗は話も熱く」との措辞に作者の気持ちが出ている。

特選人 寺庭の紅葉見つめる石仏 群馬県 横坂すまえ

美しい寺領の紅葉に對峙しての作者
「紅葉見つめる石仏」の措辞が良い。

入選 運動会騎馬の先陣女の子 愛媛県 河本坦

入選 一直線かけゆく枯葉振り向かず 愛知県 平野辰美

入選 割って入る人の話しに秋の蠅 宮城県 福田良光

入選 秋思ふと記憶異なる夫と妻 群馬県 滝沢照香

入選 秋冷や猫が足置く吾の足に 群馬県 竹淵洋子

入選 秋刀魚焼くこの贅沢にほくそ笑み 群馬県 山口岩美

入選 看護師の笑顔まぶしき月今宵 群馬県 関本よし子